

あたたかい子  
かしこい子  
たくましい子

学校だより

# つよし

—第40号—

令和2年1月27日  
平戸市立津吉小学校  
文責 校長 田川定司

## 授業参観・懇談会の御参加ありがとうございました

1月22日(水)に授業参観を行いました。この週は、オープンスクールとして、書き初め展も合わせて実施しました。保護者の皆様には、お忙しい中、多数御出席いただきありがとうございました。次回は、2月27日(木)を予定しています。今年度最後となりますので、ぜひ御参観ください。

### 二分の一成人式

4年生の子供たちは、二分の一成人式を開催しました。成人式では、証書の授与を行い、子供たちが誓いの言葉や感謝の言葉を述べました。また、小さい頃の写真を見ながら、保護者の皆さんとともに成長を振り返りました。

### 租税教室

6年生の子供たちは、平戸市法人会の大村謙吾様を講師に、税金の使われ方やその大切さなどについて学びました。画像や実物大の1億円なども用いて、子供の興味を引き付けながら進めていただき、税金に関する理解を深めることができました。

### 2月行事予定

- 3日(月) 委員会活動
- 10日(月) 代表委員会
- 11日(火) 建国記念の日
- 13日(木) PTA 理事会
- 17日(月) クラブ活動  
(3年生クラブ見学)
- 19日(水) 3年生社会科見学
- 23日(日) 天皇誕生日
- 24日(月) 振替休日
- 25日(火) 薬物乱用防止教室
- 27日(木) 授業参観・懇談会

今年最初の芥川賞に平戸市大島が舞台となった『背高泡立草』が選ばれました。『背高泡立草』は、母親が平戸市大島出身の古川真人さんの作品です。郷土ゆかりの作家の受賞を喜ぶとともに、年始の長崎新聞に、津吉小学校第15代校長の山口行雄先生の記事が掲載されましたので紹介します。

### 観覧車

### 濃くなる鉛筆の字

「雪がふってきた。／えんぴつの字がこくなった。」。本紙俳壇の元選者で、昨年亡くなった山口行雄氏が昭和61年、平戸市立津吉小勤務の折、こどもの詩についての指導の手引を、ガリ刷りでまとめた本の中に紹介されている短詩である。「小三」とだけ記され、作者の名前も性別もない。その無名性が一層、詩を深くさせ、子どもたちの言葉への可能性を夢見させてくれる。

ゲームやスマホのあふれる今の時代。山口氏は、「子どもに詩をかかせ、そのことに教育の教育らしさを見つけ、そのなかに、子どもの人間性をみつけ、子どもをそだてるたのしさを知り、文化をつくるむすかしさを考える。そういう先生がたくさんおられたらいいなあ」とも書いている。

鉛筆の文字の黒と降ってくる雪の白の対照に思いを寄せる感性の豊かさ。こんな詩も引かれている。「ゆきふりだ、ゆきふりだ」ときわいだら／せんせいがおこったね。／ぼくはうれしけれど／せんせいはいれしくないのかい」(小一)

井戸という心の水を、感性という釣瓶で汲み上げる子どもたちの詩の数々。読み初めでうれしくなった。ひるがえって、人生を濃くするのは何だろうと思う。豪雪地帯の人には申し訳ないが、年の初めに雪を待ってみたい気持ちになる。